現地取材報告とTICAD (アフリカ開発会議)における 「西サハラ問題 |



報告 1

岩崎有一/ジャーナリスト/アジアプレス

「西サハラ取材報告~占領地と解放区、難民キャンプの現在」

モロッコがスペイン領サハラへの侵攻を始めた1975年の"緑の行進"から、44年が過ぎた。現在、西サハラの民サハラーウィは、3地域に暮らしている。モロッコ占領地では今もモロッコ人の入植が進められ、新ビジネスも勃興。その陰で、サハラーウィへの弾圧も重ねられている。一方、アルジェリア西部チンドゥーフに逃れたサハラーウィは、サハラ・アラブ民主共和国(RASD)を樹立。難民キャンプで独自の社会を形成しながら、独立に向けた活動を継続している。「砂の壁」と呼ばれる分離壁を境に、西サハラ地域のサハラ側はRASD解放区とされる。ここでも、一部のサハラーウィが生活を続けていた。

2018年4月と8月に占領地を、2019年3月に解放区と難民キャンプを取材した。現地の様子と声を、写真とともに報告する。



報告 2

稲場 雅紀 / アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター、市民ネットワークfor TICAD世話人 「日本のアフリカ外交と西サハラ~TICAD (アフリカ開発会議) における議論」

近年TICAD(アフリカ開発会議)の公式会議のたびに「西サハラ問題」をめぐり、会議の遅延などの混乱が生じている。何が、こうした事態を招来させているのか。西サハラをめぐるTICADでの動きについて報告するとともに、歴史的な経緯も含め、アフリカ連合、国連、日本政府の立場や対応について検証する。8月にはTICAD7(第7回アフリカ開発会議)が控えている。「西サハラ問題」を通じて見えてくるTICADの実相と、本来アフリカの平和と安定、開発、人道の課題に貢献すべきTICADの今後の在り方について提起する。



2019/ **7/3**水

18:30~20:30

場 所: 東洋学園大学 本郷キャンパス

1404教室 (1号館4階)

〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3

アクセス情報▶ https://www.tyg.jp/access/



資料代: 1,000円 (AJF会員・日本アフリカ学会会員・学生は500円)

申 込: お申込はこちらから▶ https://forms.gle/H9aQviseZVcgS7bE8



連絡先:アフリカ日本協議会 (AJF) TEL/03-3834-6902 (担当/廣内) E-mail/kaori.hirouchi@ajf.gr.jp

参考:岩崎氏の 掲載記事 ・タコで追う「西サハラ」問題/築地から"アフリカ最後の植民地"へ Yahoo!ニュース 特集 QRコード左▶・アジアプレス連載記事 <現地報告>アフリカ最後の植民地・西サハラを行く(全24回を予定) QRコード右▶





主催:特定非営利活動法人アフリカ日本協議会(AJF) 共催:日本アフリカ学会関東支部